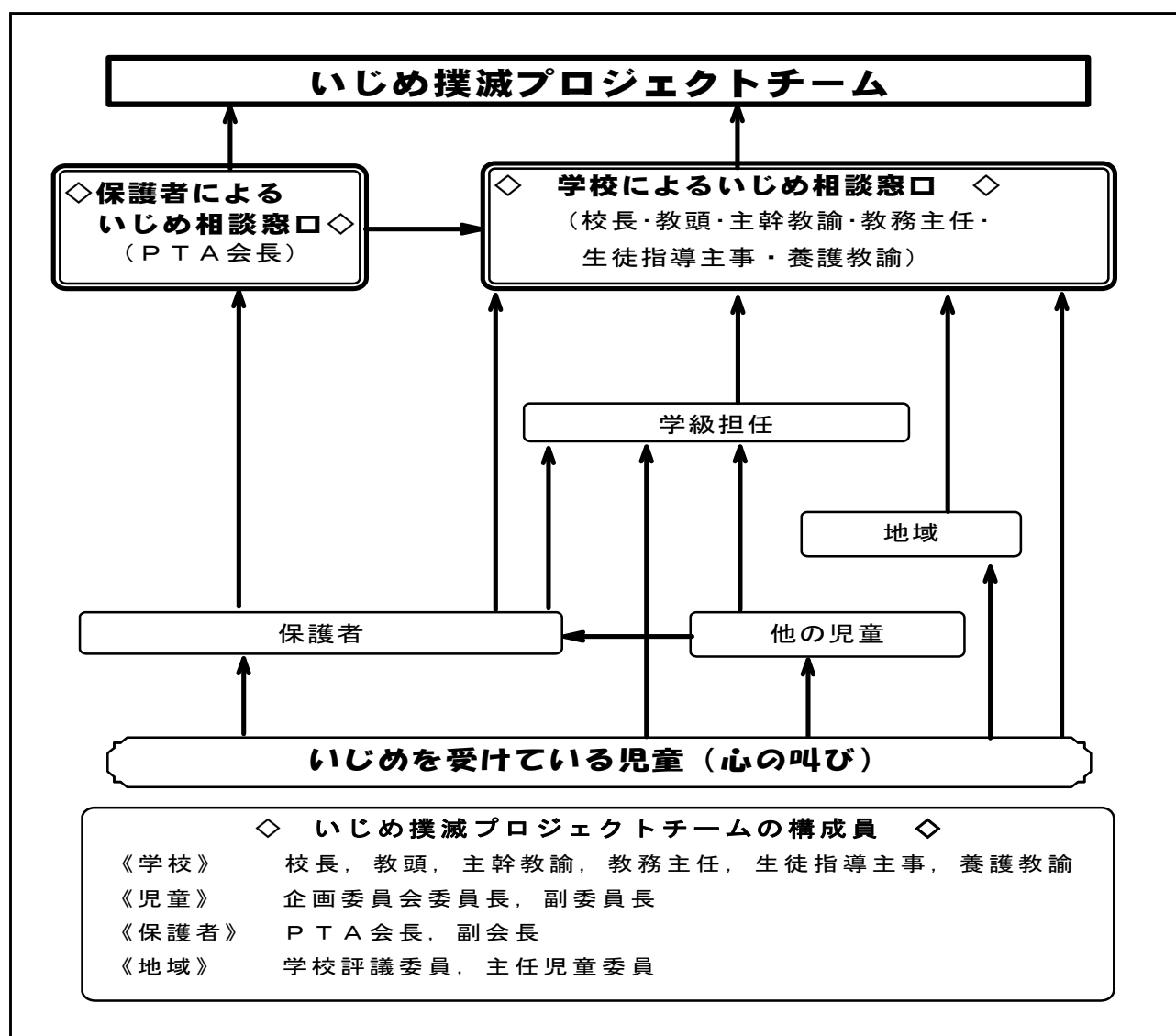
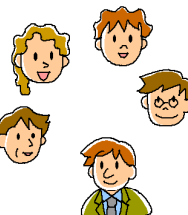




「いじめ防止プロジェクトチーム」の設立

いじめ防止のための組織的な取組をさらに進めていくために、2学期から学校、子ども、保護者、地域の代表からなる「いじめ防止プロジェクトチーム」を設立します。いじめゼロを実現していくために、子どもとその成長を願う大人が共に取り組んでいこうとする取組です。このプロジェクトでは、次のような取組を行っていきます。

- 教職員、子ども、保護者、地域の皆さんがいっしょになって「いじめ撲滅キャンペーン」の取組を実施し、いじめ撲滅の呼びかけ等を行っていきます。
- いじめ問題相談窓口を設置し、学校への直接の相談だけではなく、保護者の皆さんの情報が学校に速やかに伝わるよう「保護者によるいじめ相談窓口」を設置します。
- いじめ問題に対する情報の共有や意見交換をするために定期的、臨時にプロジェクトチームで委員会（児童を除く）を開催します。





しあわせいっぱい的西小にするために



《子ども達の心の叫びに耳を傾けます》

学校で子ども達の様子を一番把握しているのは、担任です。しかし、担任の目の届かないところでの行動については、十分に知ることができないところがあります。西小では、担任以外に、専科の先生、非常勤講師の先生、学校教育指導補助員の先生、特別支援学級指導員の先生、給食技師・業務主事の先生、たてわり班掃除での担当の先生等いろいろな先生が子どもの様子を見守っています。また、交換授業で他の学級の授業を行い、子ども達の実態を把握しています。定期的に子ども達にアンケート調査を行い、気になる子どもと面談をしたり、学級指導を行ったりしています。



《自己肯定感を高め、規律を徹底します》

いじめの起こりやすい環境をつくらないことが、いじめの未然防止の第一歩です。そのために、西小4原則「あいさつができる」「返事ができる」「時間を守る」「掃除ができる」等の指導を継続しています。生徒指導規程細則で、「西小のきまり」を細かく定め、それに従って指導を徹底しています。また、学校生活の大半は学習の時間です。基礎学力の定着を目的とした個に応じた少人数での学習や、しっかり考え、しっかり表現する中で共に学び合う授業づくりをしていきます。

《保護者の皆さんとの連携を深めます》

学校で起こった子どものトラブルについては、家庭へ連絡をし、状況や対応についてお知らせします。また、事後の取組や子どもの様子についても連携をしていきます。いじめには、必ず前兆があります。家庭だからこそ発見できる子どもの変化があります。「我が子がいじめられているかもしれない。」「我が子がいじめられているかもしれない。」という危機意識を持ち、気になることがあれば学校にお知らせ下さい。いじめの発見ポイントについて紹介します。ひとつ当てはまるからと言うことで神経質になる必要はありません。まずは、子どもと話をしてみてください。



いじめられているかも・・・

- ① 学校や友達の話をほとんどしなくなった。
- ② 友だちが遊びに来なくなった。遊びにも行かなくなった。
- ③ 朝、表情が曇り、登校を渋るようになった。
- ④ 学用品や衣服が荒らされている。金遣いが腑に落ちない。
- ⑤ 親や家族への反抗が目立ち始めた。

いじめているかも・・・

- ① 対象児童への悪口が増えるようになった。
- ② 自分の部屋（密室）での電話やメールが多くなった。
- ③ 金遣いが乱れ、見慣れないものを目にするようになった。
- ④ 特定の友だちとだけ遊ぶようになった。
- ⑤ 家庭では努めてよい子に振る舞おうとするようになった。

